



ファインスチール

Spring 2024

春



CONTENTS

01 特集1

第22回 金属サイディング
施工例フォトコンテスト

05 特集2

「全国ファインスチール流通協議会」展示会出展報告
宮城・仙台 新築リフォームフェア 2024

07 ファインスチールを使った 建築設計例 347

林の中の4枚屋根

屋根の重なりの下に住む ——

設計：仲 俊治 + 宇野 悠里 / 仲建築設計スタジオ

11 建築めぐり

ウォートルス伝 31 丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例 その55

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

第22回 金属サイディング 施工例フォトコンテスト

(主催：日本金属サイディング工業会 後援：一般社団法人 日本鉄鋼連盟)

日本金属サイディング工業会が一般社団法人 日本鉄鋼連盟の後援により、2023年6月1日～9月30日を応募期間として実施した「第22回金属サイディング施工例フォトコンテスト」について、受賞された施工例の写真を中心にご紹介します。



新築部門 最優秀賞 / 道の駅若狭美浜はまびより

株式会社 三橋設計 (東京都)

この度、写真コンテスト新築部門にて、最優秀賞を頂き、大変嬉しく思っております。

本道の駅は、北陸新幹線が開業する敦賀、観光名所である三方五湖をつなぐ東西軸上の主要施設として整備されました。広場を分散させ、様々な目的・機能に応じた屋根をだらかに重ね合わせることで、人々が立ち寄りやすく、開かれた屋根下空間を創出し、外構の舗装は、ルーフトップテラスから一望出来る若狭湾の波のイメージを表現し、外壁は若狭湾の碧色を取り入れた「金属サイディング波板」を採用することで、波模様が外構から外壁へ一体的に立ち上り、人々が自然に建物へ誘導されることを意図しました。

今後、地域の特色を表現した建物デザインが、訪れる人々の心象風景となり、周囲へにぎわいがあふれ出すような拠点施設になると感じています。



小田 嶋亮さん (設計部 次長)

●江口特別審査委員のコメント

若狭湾の道の駅、また美しい物語のある建築物が生まれました。アウトドアとインナー空間が曖昧に続く中、ダイナミックな波の表現が見事です。軒天井の柔らかな膨らみのある木と、外壁の金属サイディングの藍色が素晴らしいコントラストの中融合しています。藍色は永遠のトレンドだと思います。大地と海と空と風と一体化するさまを道の駅が魅せてくれます。観光客だけでなく地元の皆さんの憩いの場になるランドマーク、その藍色を美しく描く金属サイディングのデザイン性がひととき輝く作品になりました。今後の住宅デザインにも影響が大きいと思われます。

●杉田特別審査委員のコメント

今回の新築部門は、モトーンの、いわゆるシンプルモダンと呼ばれるデザインの住宅が多かったように思います。その中であって、際だって印象に残ったのがこの作品です。「道の駅」ということで建物の規模も大きく、華やかな商業施設ですから目立つのは当たり前で、他の作品からすると反則と言われてしまうかもしれません。それでも、やはりフォトコンテストですから、写真から受ける圧倒的な「映え」感是最優秀に相応しいと思いました。空の青さと、太陽の反射光を浴びた天井とのコントラストから、外壁がまさに紺碧の海のような青さで浮かび上がっています。大屋根の木の天井も、暖かみを感じさせると共に、紺碧の海を航海する巨大な船を思わせます。とても洗練された作品であると思います。このコンテストは、施工例フォトコンテストですので、評価には写真の出来栄が大きく関わります。この作品のように、晴天の日に、意図するデザインが写る角度で、三脚を使用するなどして撮影していただくと良いと思います。この作品は、写真としても今後の参考にさせていただきたい作品であると思います。昨年に引き続き、非住宅の作品が最優秀となりました。今後も、住宅系だけでなく、様々な用途に金属サイディングが使われていくことを願うと共に、住宅でも、さらに良い作品の応募を期待したいと思います。

金属サイディング施工例フォトコンテストは、日本金属サイディング工業会加盟8社が、全国の設計事務所・工務店・金物店・板金店の協力を得て、金属サイディング普及活動の事業として実施しているもので、第22回は全国から2,114作品の応募がありました。新築及びリフォームで建物の外装に金属サイディングを使用したものを対象とし、新築では建物の意匠性・高級感・コーディネート感覚など、トータルでバランスのとれた作品、リフォームでは『施工前→施工後』で優れたイメージアップの見られる作品を審査委員会で選考しました。その結果、最優秀賞2作品（新築・リフォーム各1作品）、優秀賞8作品（新築4作品・リフォーム4作品）、入選賞39作品（新築19作品・リフォーム20作品）が選ばれました。

また、東日本大震災発生以来実施している被災地に対しての義援金寄付は前年に引き続き総額211,000円（応募作品件数に応じた額）を日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

[審査委員会]

- ・特別審査委員 江口恵津子（株式会社ヴェルディシモ代表取締役、一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会会長）
- ・特別審査委員 杉田宣生（一級建築事務所 HARUハル建築研究所）
- ・当会審査委員 理事・幹事・技術委員・事務局

リフォーム部門 最優秀賞 / SONIA麻生A・B

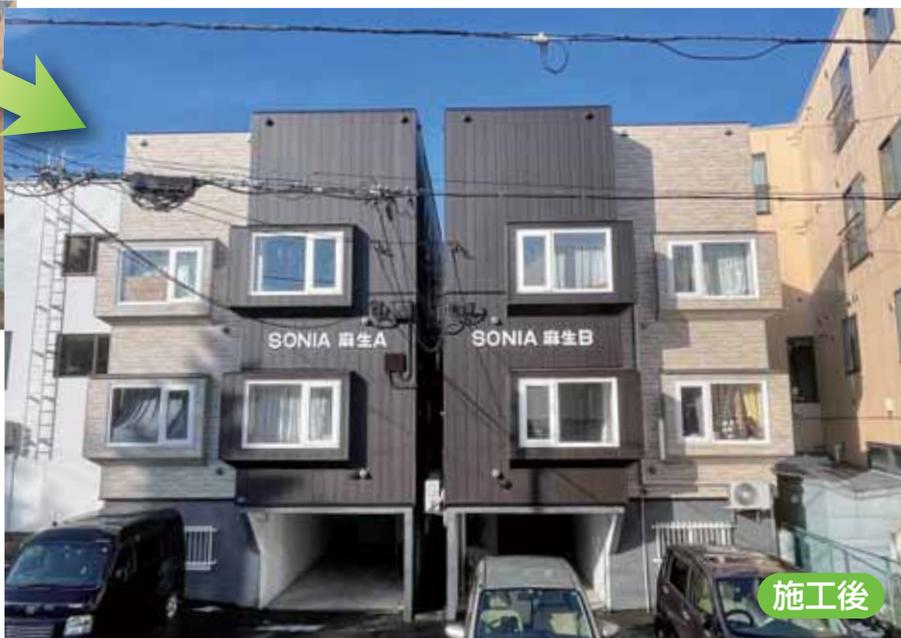
株式会社TopRunner / ガイソー札幌店（北海道）

初めてコンテストに応募させて頂き、いきなり最優秀賞を獲得させて頂いて大変嬉しく思っております。金属サイディングも貼れば良いだけの時代が終わり、いかにお洒落でお客様を『あ』と驚かせる提案ができるか。ここが肝になっていると日々お客様と接する中で感じておりますので、今回の受賞をきっかけに更なる飛躍を遂げられるよう社員一同邁進して参ります。また、弊社のミッションは『満足』から『感動』へ。です。これからもお客様に感動をお届けできるよう住環境のプロとして地域社会に貢献していきたいと考えております。

この度は改めましてありがとうございました。



施工前



施工後



齊藤 太基さん(代表取締役社長)

●江口特別審査委員のコメント

桑炭色を有効に使用して唯一無二のスタイリッシュな建物になりました。2色分けの縦バージョンは大変難しいと言われるのですが、建物のフォルムを活かしたシンメトリーで堂々としたデザインが成功しています。

リフォームで金属サイディングを使用する場合、機能性アップが重要視されますが、この作品はフォルムは変えなくてもデザイナーカラーでも大きく市場価値を上げてくれることを立証してくれています。街並みの美しさに貢献し、施主様も満足し、入居者も自慢の我が家になることでしょう。

金属サイディングのリフォームメリットをよく実証して頂いた作品です。

●杉田特別審査委員のコメント

いつながら、リフォーム部門の最優秀は、毎回悩みます。

単純な張り替え、増築や、最近では減築もあり、大がかりなリフォームもあります。毎回、何を基準に選ぶのか、自分の中の物差しも変化してしまいます。

とは言え、やはりフォトコンテストですから、写真から受ける印象と、その建物がリフォームを行うことで、周囲にどのような影響を与えそうかなどを想像しながら選ばせていただいています。

今回、最優秀とさせていただいた作品は、少し古くさくなった青色の外壁を、2色の濃淡の外壁として、アクセントと奥行きを持たせた作品です。

2棟が対となっている3階建てのアパートですね。リフォームにより、とてもシャープでおしゃれなファサードになり、2棟の建物の凹凸が、リズムカルに感じられます。張り替えのリフォームの好例であると思います。



新築部門 **優秀賞**

(株)山本工務店
(千葉県)

新築部門 **優秀賞**

SATアーキテクト 一級建築士事務所
(神奈川県)



新築部門 **優秀賞**

(株)atelierSUBACO
(兵庫県)

新築部門 **優秀賞**

(株)ロータリーハウス
(徳島県)



リフォーム部門 **優秀賞**

(株)アーキシステム (茨城県)



リフォーム部門 **優秀賞**

リフォームJAPAN (愛知県)



リフォーム部門 **優秀賞**

別所工務店 × ガイソー京都西店
(京都府)



リフォーム部門 **優秀賞**

(株)千葉工務店 (徳島県)



「全国ファインスチール流通協議会」展示会出展報告

宮城・仙台 新築リフォームフェア2024

主旨：新築やリフォームに関して様々な悩みや不安を抱える一般消費者の方と、住宅設備・建材メーカー、工事を請ける会社との“出会いの場”となることを目的として開催

会期：2024年1月20日(土)・21日(日)

会場：夢メッセみやぎ

主催：宮城・仙台新築リフォームフェア実行委員会(共催:宮城テレビ放送)



●多くの人に体験・体感してもらう展示会に

全国ファインスチール流通協議会は、一般社団法人日本鉄鋼連盟建材薄板技術・普及委員会の協賛のもと2024年1月、ファインスチール普及活動の一環として、宮城・仙台 住宅リフォームフェアに出展。昨年、全面リニューアルした展示パネルと、2種類の体感型展示模型と屋根のミニチュア模型、外壁サンプルを従来どおり展示。お子さま向けのイベントも開催し、来場者にファインスチールをよりよく理解してもらえる展示会となりました。



体感型展示模型・ミニチュア模型は子どもたちに大人気



「熱いかな?」子どもたちは遮熱体験に夢中



「スイッチ押してみたいけど…」耐震比較模型に興味深々



子どもたちには遊んでもらって…お母さんは読本を手に熱心に質問



「瓦の形の製品もあるんだ」興味を持ってくれたお母さんにノベルティをプレゼント

●若い世代のご家族連れが多数来場

昨年からイベントやヒーローショーが復活し、展示会場への来場者も、小さいお子さまを連れた若い世代のご家族が増えてきました。当ブースでは前回の「スーパーボール釣り」をバージョンアップし新たに「おもちゃすくい」を開催。子どもたちがどんどん集まり、順番待ちの子が出てしまうほどの大盛況となりました。

開催状況は、展示パネルでファインスチールについて理解度を高めてもらい、体感型展示模型で実際に体験してもらう、頭と身体での理解活動を展開。お客様に「耐震性」「耐候性」「意匠性」に優れた製品として認識いただけました。



順番待ちの子も! 大盛況の「おもちゃすくい」

開催結果

●来場者数報告

1月20日(土)・21日(日)

2日間で8,399名:主催者発表

●当協議会ブースでの配布物

ファインスチール読本

2日間合計 250部配布



ミヤギテレビのゆるキャラ「だよん」がお出迎え



今年は「おもちゃすくい」を開催



林の中の4枚屋根

屋根の重なりの下に住む

設計：仲 俊治 + 宇野 悠里 / 仲建築設計スタジオ



(撮影：写真はすべて、鳥村鋼一氏撮影©)

涼やかな緑の薫りと木立に包まれた家。それが今回紹介する『林の中の4枚屋根』だ。長野県に住む施主夫妻と子の家族3人の住まいに、夫妻の仕事場を併設した木造平屋建ての住宅である。

この住宅を設計したのは建築家の仲俊治・宇野悠里両氏である。施主夫妻は両氏が県内で手掛けた建築作品との出会いから、自邸の設計を依頼した。施主からの要望に添いつつ、自然に囲まれた周辺環境に馴染むようにデザインされた住宅である。

敷地条件と建物の配置

針葉樹林に囲まれた敷地は、舗装の

されていない道路が交差する斜面の角地にある。敷地に接する南と東の道路に対して、およそ500坪の敷地が北側下方に広がっている。この広い敷地の中央に、木々の無い陽だまりの空間があった。そこは元々、建物と庭があった場所であり、敷地内の環境を変えずに新たな住宅を建てられることから建物の配置は自然と決まった。

建物デザインと室内空間

林の中に浮かんでいるように見える屋根が印象的な住宅で、コンセプトは「屋根の重なりの下に住む」。屋根と呼応するように計画された室内空間もまた、

この住宅の見どころである。

―屋根のイメージ―

はじめにイメージしたのは「落ち葉」だ。落ち葉は宙を舞い風や陽を可視化させ、それらの重なりは無限の形をつくりだす。落ち葉から得た発想はデザインをはじめ随所に用いられている。

―屋根のデザイン―

敷地は道路からやや下がっている。そのため、道路から見下ろされるかたちの建物は外からの視線が気にならない。通常は見えないことの多い屋根面に目がいく「見下ろしの視点」から「重なっている4枚の落ち葉」をイメージした屋根



西側俯瞰。



北東側外観。右側が車庫、左側が玄関アプローチ。

のデザインがうまれた。大きさの異なる4枚の屋根は四方に流れる片流れとなっており、それを風車状に噛み合わせている。さらに屋根と屋根の間にズレをつかった。軒先は低くした。窪地に落ち葉がすっぽりと溜まったような、そんな印象を与える4枚の屋根は、木々に覆われた景観に馴染んでいる。

4枚の屋根であるものの、緩やかな曲面を形成しながら、ところどころで別の屋根に摺りついている。垂木を少しずつずらし、塗装ガルバリウム鋼板を曲げながら使用することで曲面が表現できたという。デザインに塗装ガルバリウム鋼板の特性が活かされている。

—屋根と室内空間—

4枚の屋根の下には家族ひとりひとりの個の活動空間がある。個室3室と和室のアトリエである。これらをプライベートな四つの「箱」と捉え、分散配置

している。そして「箱」のまわりが家族で共有されているコモンスペースである。このコモンスペースこそ屋根の重なりを楽しめる空間なのである。

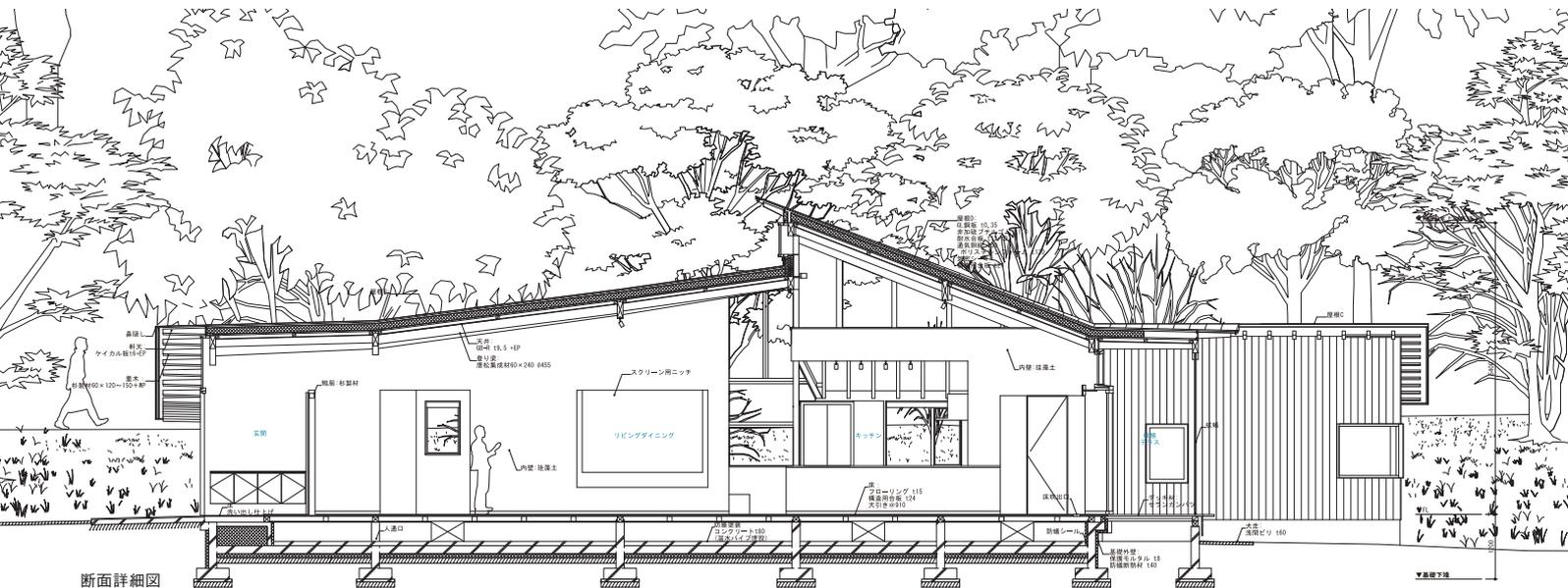
屋根は高さ方向にズレがあり、そのズレを利用して方々にハイサイドライトを設けた。このハイサイドライトにより軒先が低い屋根でありながら室内に差し込む光により時を感じ、外に見える緑から自然を感じることができる。外の環境を内に取り込むハイサイドライトは室内空間に広がりをもたらし、立ち位置によって視点が大きく変わって、視覚的に楽しい空間となっている。

屋根と素材

—外から見る—

■周辺環境との調和

4枚の屋根は傾く方向も、その勾配も異なる。道路から見ると陽の光の反射が



断面詳細図



ダイニングから玄関方向を見る。屋根の3次元曲面と連動して、少しずつ高さの変わる登り梁が動きのある室内をつくる。

一様ではなくそれぞれの屋根面で違ってくる。また屋根やハイサイドライトのガラスに周囲の樹木の影が映り込み、様々なかたちで建物と自然が呼応している。細やかなデザインや素材の選定により周辺環境との調和が図られている。

■浮遊感

落ち葉のように浮かんで見えるのは屋根のデザインだけによるものではないという。外壁を黒く塗装したカラマツ縦羽目板で覆うことで、道路から見下ろした時だけでなく建物正面から見た時にも屋根の浮遊感を創出した。

ー内から見るー

■生活との調和

外観と異なる印象の室内。珪藻土の壁と明るい色合いのフローリングと垂木に囲まれた内部には、様々な高さに開口部が設けられている。これにより光や風の通り道となっているだけでなく外の景色も室内の一部として採りこんだ開放的な空間となっている。

玄関から続くコモンスペースは勾配の異なる屋根を下から眺める格好になっており、リズムカルに垂木が配されている。一方、4つの「箱」は、天井高を抑

えた和室や、アーチ型の開口部により仕切られた洗面室などであり、室内空間のメリハリが与えられている。このようなデザインの工夫は室内にいる人の視点を様々な方向に導き、ここに住まう人が時間や季節のうつろいを感じることで、自然と生活が調和する空間でもある。

■パースペクティブな広がり

平面図からもわかるが室内空間は玄関から奥にむかって広がっている。これは「屋根の重なるの中心点をふたつにしたズレ」を利用して作られた空間形状である。玄関の正面にはダイニングが見え、ダイニングの先は掃き出し窓からテラスに繋がっている。そしてリズムカルな垂木に演出されランダムに交差し合うように見える天井により、平面的な広がりにはパースペクティブのような立体的な広がりをもたらししている。このような視覚的な効果は和室から見たときも感じることが出来る。

■光の演出

この住宅は間接照明を主体とした照明となっていて、光源を感じない室内空間である。光源を感じさせない空間は視線を遮ることがなく、この住宅の空

間的な広がりには照明による効果もある。夜の室内は勾配の異なる白い天井を照らす間接照明により天井のデザインはひときわ際立ち、ガラスの開口部から見える闇夜の暗さとの対比も美しい。陽の光による効果、照明による効果、時や季節を感じるができることで、光の奥深さを感じる室内空間となっている。

塗装ガルバリウム鋼板の魅力

今回の住宅は屋根が主役である。前述「ー屋根のデザイナーー」でも既述したように、このデザインは塗装ガルバリウム鋼板以外の素材では実現しなかったであろう。塗装ガルバリウム鋼板のしなやかさは「融通無碍で、有機的な形状に追従する」と、建築素材としての塗装ガルバリウム鋼板に対する仲・宇野両氏の評価は高い。

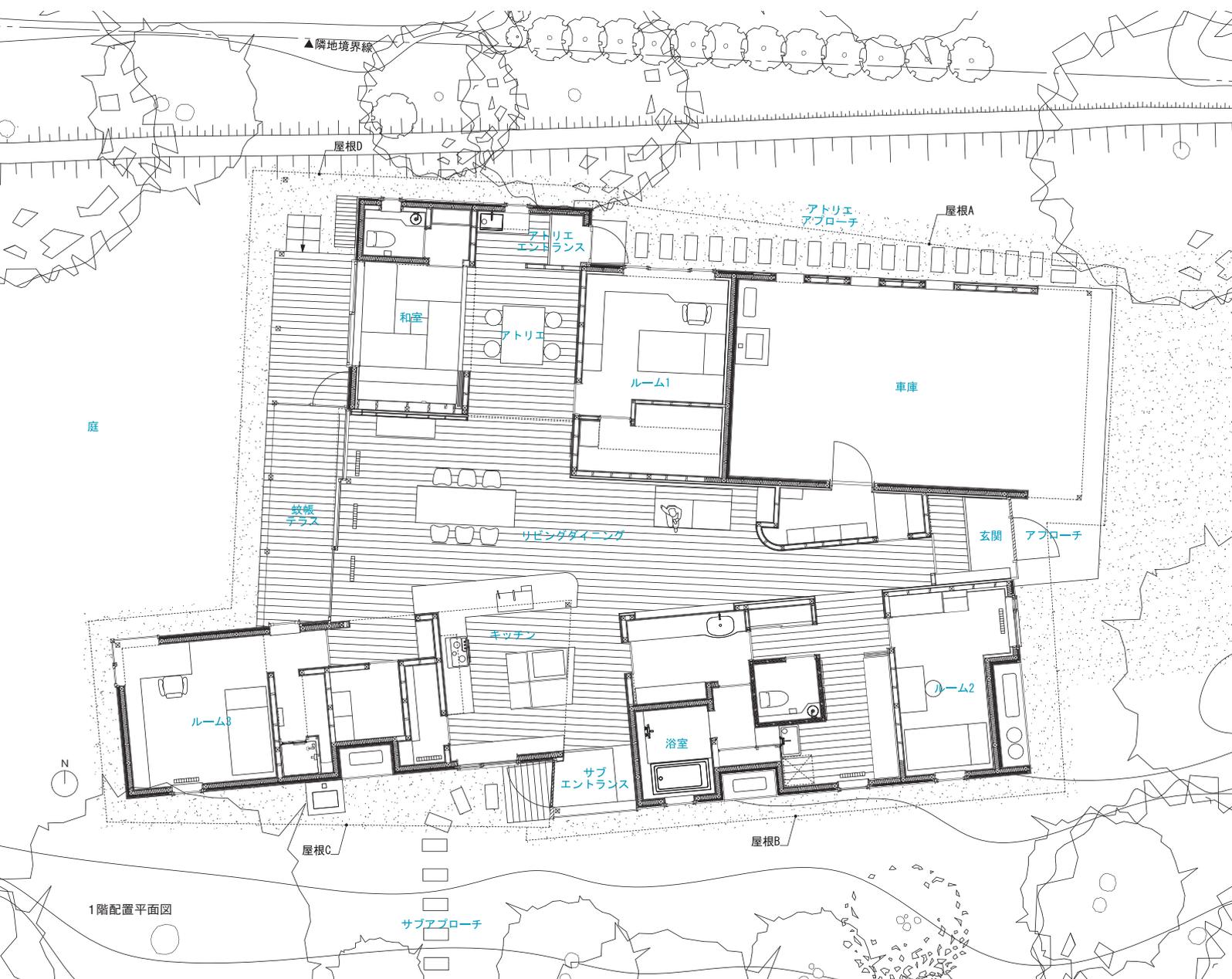
今回紹介した『林の中の4枚屋根』という住宅は「家族の暮らしを個人の活動の集合体としてとらえた、職住一体の生活環境の提案である」と仲・宇野両氏はいう。職住一体の生活環境の

提案だけではなく、周辺環境に馴染ませることで住まい手の生活をより豊かにする、というアイデアが満載の作品であった。

『林の中の4枚屋根』を通して、周辺環境に馴染ませるということは、外からの視点で建築物を周辺環境に馴染ませるだけではなく、周辺環境を生活空間に採り込んで活用し、さらには建築素材や照明などが建築家により適材適所に加味されることで実現できる、ということを改めて認識できた。



アトリエから右側に和室、正面にキッチンを見る。アトリエと和室は茶道の教室として間仕切ることができる。



設計：仲建築設計スタジオ／仲 俊治 + 宇野 悠里

一級建築士事務所 株式会社 仲建築設計スタジオ／〒153-0053 東京都目黒区五本木3-21-6

[tel] 03-5704-8843 [e-mail] office@nakastudio.com [URL] https://www.nakastudio.com/

レポーター：東京大学 大月研究室 深見 かほり

アーネストの悲劇

藤森研究室

担当 丸山 ^{もとこ} 雅子

前回の記事では、アーネストの数々の災難について、重い病氣、足のつま先の切断、馬車の転落事故、左目の失明、自宅の全焼(1892年2月)まで述べた。時期は不明だが、銀食器の盗難にもあっていたらしい(注1)。

また、やはり時期はわからないが、腸チフスで命を落としかけたこともあったという。その際、アーネストを看病したのが、後に彼の妻となるクイーニーで、以来二人は親密になったとする資料もある(注2)。前回の記事では、別の資料に基づいて、馬車の事故で負傷したアーネストをクイーニーが看病したことで二人の仲が深まったと書いたが、それとは異なる情報である。

クイーニーの本名は「ファニー・ブラウン(Fanny Brown)」という。だが、周囲からは「クイーニー(Queenie)」と呼ばれ、本人もそのように名乗っていたようなので、本稿もそれに従う。(注3)

クイーニーは、アーネストが拠点としていた鉱山町テルライドのホテルのウェイトレスとして働いており、そこでアーネストと知り合った(注4)。アーネストは、テルライドでは誰もが知る有名人だった。そして、アーネストが大病に罹った(あるいは重傷を負った)とき、クイーニーはホテルの仕事を離れ、彼の家で不眠不休で看病し、彼の命を救ったのだった。彼はそのことを理解しており、テルライドの人々も彼女を称賛した。その献身は彼女がどれほどアーネストを愛していたかを証明していたので、アーネストが彼女を妻に選んだとき、テルライドの人々の間に大きな衝撃はなかった。しかし、テルライドの外では違った。アーネストの仕事仲間は、彼の結婚について異なる感情を抱いており、彼が間違った相手を選んだと考えていた。

クイーニーは、背が高く、黒い瞳と繊細な顔立ちをした美しい女性だったが、若くはなかった。彼女は自分の育った環境に不満を抱えており、教養や修養を身に付けておらず、頑固で感情を抑えることができなかった。一方、アーネストには教養があり、根っからの紳士で、洗練された生活を好んでいた。夫婦の性格や趣味の不一致は、テルライドでも知られるようになった。彼らはしばしば口論し、1890年にデンバーに二人で出向いた際には、クイーニーはプライドを傷つけられ怒っていた。アーネストは離婚はせずに別居するつもりだったが、彼はまだクイーニーを愛していたので、二人は仲直りしてテルライドに帰った。その後の一年間、アーネスト夫妻の周りにはゴシップが飛び交った。そして二人は再びデンバーにやってきて、アーネストは弁護士を雇い、「incompatibility(性格の不一致)」を唯一の理由とする離婚訴訟の書類を作成した。クイーニーも弁護士をたてて抗った。彼女は、自分の財産権などはどうでもよかった。ただ夫を取り戻すためのあらゆる試みが尽くされるまでは、彼を法的に解放しないことを決意していた。離婚は成立せず、二人はキスをして

仲直りし、再び一緒に暮らすことになった。

アーネストがテルライドの自宅にいるうちは平和だったが、彼が仕事の都合で家を留守にするたびに、家に戻るとトラブルが起きた。

1892年4月、二人は再び別れた。クイーニーはデンバーに赴き、ビービ(John E. Beebe)夫妻の家に身を寄せた。ビービ夫人はクイーニーの古い友人であり、ビービ氏は写真家で、アーネストが当時デンバーで改築中だったシェリダンビル²の二階に店を構えることになっていた(注5)(図1)。前年の夏には、ビービ夫妻がテルライドのアーネストの家に滞在したこともあり(注6)、1892年1月には、デンバーのビービ邸で、アーネスト夫妻を主賓とするパーティが開かれたこともあった(注7)。この二組の夫婦は非常に親しい関係にあったようである。



図1 ビービ写真製版所の広告
ビービ写真製版所(Beebe Photo-Engraving Co.)は、アーネストが所有するシェリダンビル²の二階に入居した。広告から、アーネストが社長で、ビービ氏はゼネラルマネージャーだったことがわかる。
出典:『The Rocky Mountain News』1892年7月17日、5頁。

この時のクイーニーはヒステリーを患い、体調を崩していた。アーネストがクイーニーのもとに現れ、彼はヨーロッパ旅行を提案し、クイーニーは喜んで受け入れた。彼らは五月の第一週にニューヨークを出港した。

しかし、二人はまた喧嘩をした。ロンドンのランガム・ホテルで激しい口論になり、翌日ロンドンを発ってパリに向かい、そこで二人は別れ、クイーニーは一人でパリからデンバーに戻ってきた。アーネストは約一週間後、6月1日ごろにデンバーに戻った。

アーネストは定宿のウィンザーホテルに宿泊し、クイーニーのいるビービ邸を頻繁に訪ねた。クイーニーとは二回面会し、特に6月7日の午後³の面会は友好的なものとなった。こうして何度目かの仲直りが成立し、面会の後、クイーニーはいつになく明るく元気そうで、ビービ夫妻に、またアーネストと一緒に暮らすことになったこと、別れ際にアーネストにキスをされたことを嬉しそうに報告した。午後6時のお茶の時間から夕方にかけて、クイーニーは夫妻と楽しくおしゃべりをし、2、3か月後にはパリに戻る予定だと話した。

夜8時になると彼女はもう寝るといい、彼女の部屋のある二階に上がっていった。ビービ夫妻は散歩に出かけた。この時、クイーニーの部屋にだけ明かりがついていた。夫妻が異変に気づいたのはその約30分後だった。家から1ブロック離れたところで、家じゅうの明かりが灯っていることに気づき、夫妻は急いで

家に戻った。門扉を開けると、クイニーがベランダのロッキングチェアに座っているのに気がついた。暗くて、彼女の姿勢はよく見えなかった。声を掛けたが返事はない。不審に思い、駆け寄ってクイニーの手に触ると、冷たく生気がない。顔を見ると、何かがおかしい。頭は後ろに投げ出され、顔色は灰のように青白く、呼吸は速く短いあえぎ声だった。

ビービ夫人はすぐに近所に知らせ、近所の人々の助けでクイニーは家の中に運び込まれた。医師たちが呼ばれ、フェノールの匂いがしたので、解毒剤が投与されたが、効果はなかった。呻き声もため息もなく、意識を回復することもなく、ゆっくりと命が失われていき、10時30分に息を引き取った。享年39歳だった。

亡くなる直前に、アーネストがウィンザーホテルから到着した。瀕死の妻を見て、彼は目に見えて動揺していた。彼女を取り囲む人々に、彼女の軽率な行動の原因は自分にあると彼は言った。彼は一晩中ビービ邸に留まった。

彼女は、アーネストがパリで彼女に買った美しいガウンを着ていた。彼女の部屋には、テーブルの上に筆記用具が置かれていた。

彼女が飲んだ毒のビン、ビービ邸のバスルームで発見された。それはビービ氏が掃除に使うために購入したフェノールの消毒薬だった。クイニーはそれを2オンス飲んだとみられた。

深夜に検視官がビービ邸を訪問して、事実と現場の状況を確認し、死因審問は行わないと判断した。

翌日、牧師が呼ばれ、ビービ邸で葬儀が執り行われた。高価で豪華な花々で飾られ、葬儀は非常に盛大なものとなった。棺はビービ氏をはじめとするアーネストのデンバー在住の友人たちが担いで運んだ。そして、デンバーのフェアマウント墓地に、「クイニー・ウォートルス」は埋葬された(図2)(注8)。

クイニーの死は、有名人の妻の自殺として新聞に大きく報じられた。だが、アーネストは自殺であることを否定した。自殺かそれとも偶発的な事故か、アーネストと友人たちは後者だと考えた。その根拠の一つに、直前まで彼女はいつにもなく元気で、二人で幸せに暮らすよう努力することで合意したばかりだったことが挙げられた。そして二つ目の根拠として、クイニーが死ぬ直前に書いた手紙が、新聞に公開された。

「My Darling— You were kind and patient with me to-day and I thank you for it. My burden is so heavy to bear and not one to help me. But to the point. Please come to me a few moments to-morrow afternoon as I want to say several things about Telluride to you. (中略) Dear Ernie, forgive me if I have caused you one moment's pain, and when God speaks to you come to me and comfort me. I shall be watching for you at 3 o'clock. Always your loving QUEENIE.」(愛しいあなた、今日あなたは私にやさしく辛抱強く接してくれました。そのことに感謝しています。私の負担はとても重く、誰も私を助けてくれません。手紙の本題に入ります。明日の午後少しの時間私のところに来てください。テルライドについてあなたに話したいことがあります。(中略) 親愛なるアーニー、もし私があなたを一瞬でも苦しめたのなら許してください。神の声が聞こえたら、私のところに来て慰めてください。3時に待っています。いつもあなたを愛するクイニーより)

この手紙によると、クイニーは翌日の午後3時にアーネストに会うつもりだったのである。

そして三つ目の根拠は、彼女が口にしたフェノールに関連する。実はアーネストの自宅では、口腔ケアにフェノールを希釈したものを使用する習慣があり、フェノールの希釈液を置いていたという。しかし、ビービ邸のフェノールは希釈されておらず、クイニーがその殺傷力に気づかず誤って口にした可能性がある。

いつもとは違う濃い消毒薬を口に含み、危険を察して、誰かに助けを求めて家じゅうの明かりを点けて回り、ビービ夫妻がいなことがわかったので、ベランダで夫妻の帰りを待っていたのかもしれない。

自殺ではなく事故だったにせよ、この悲劇的なクイニーの死はアーネストを打ちのめした。彼は精神的苦痛に苛まれ続け、立ち直ることはできなかった。



図2 アーネスト夫妻の墓(上)とクイニーの墓石に刻まれた文字(下)(2000年筆者撮影)デンバーのフェアマウント墓地にアーネスト夫妻とトーマスが眠る。写真手前の、地面に敷かれた石がクイニーの墓石で、「QUEENIE WATERS」「Died June 7 1892.」「Aged 39 Years.」「GOD KNOWS」と刻まれている。

(注)

- 1 逮捕された強盗犯が、アーネストの銀食器を所持していたことが報じられた。『The Rocky Mountain News』1892年9月16日、5頁。
- 2 『The Rocky Mountain News』1893年5月10日、1頁。
- 3 前掲資料および『Denver Republican』1893年5月10日、1頁。
- 4 アーネストとクイニーの関係、クイニーの死については前掲資料の他に、『The Rocky Mountain News』1892年6月8日、2頁、同6月9日、8頁を参考にした。
- 5 『The Rocky Mountain News』1892年7月17日、5頁、同11月27日、13頁。
- 6 『The Rocky Mountain News』1891年8月9日、10頁。
- 7 『The Rocky Mountain News』1892年1月31日、9頁。
- 8 フェアマウント墓地の埋葬記録(Interment Record Card)には、1892年6月8日に「Fannie Queenie Waters」が埋葬されたとある。

街でみかける ファインスチールの施工例 その55



美濃加茂市西体育館

「美濃加茂市西体育館」はスポーツ施設・コミュニティ施設・避難所の機能を併せ持つ施設である。

初代の西体育館は老朽化および耐震性不足のため建て替えられることになり、2018年12月に竣工。同年12月22日に完成記念式典と内覧会が行われ、2019年1月4日から2代目西体育館として供用が開始された。

構造形式：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

敷地面積：1,350.00 m²

延床面積：1,546.16 m²

階数：2階

竣工：2018年12月

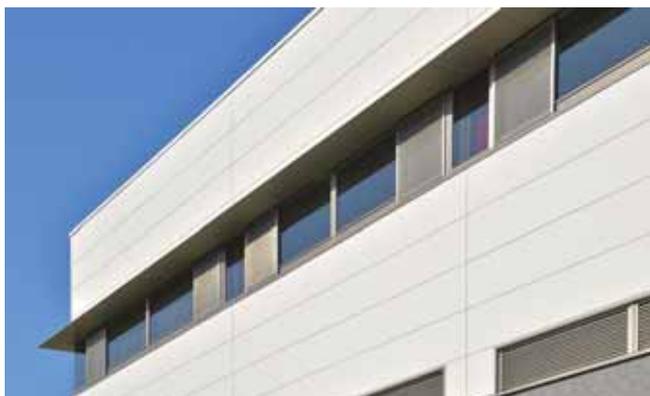
所在地：〒505-0046 岐阜県美濃加茂市西町3丁目232番地

施設概要：[1階]

- ・アリーナ (584.48m²)
- ・ミーティングルーム 1・2
- ・和室

[2階]

- ・柔道場 (293.19m²)





2 佐倉天然温泉 ^{すみれ} 澄流

千葉県佐倉市の閑静な高級住宅地の一番奥にひっそりと佇む『佐倉天然温泉 澄流(すみれ)』。塗装ガルバリウム鋼板製のシンプルな縦葺工法屋根に覆われた全館木造建築の古民家風建物は、まるでどこか地方の温泉旅館を訪れたかのような非日常を感じられる。

なお当館では、約10種類ものお風呂とサウナが用意されており、竹林と緑に囲まれた露天風呂では「熱の湯」とも呼ばれるほど身体が温まる自慢の自家源泉「佐倉染井野温泉」や、岩風呂やくつろぎの湯、美肌効果が期待できる高濃度炭酸泉などが楽しめる。内風呂では、体を大きく伸ばせる大浴槽や、ジェットバス、パイブラバス、ドライサウナに塩サウナと、たっぷり入浴を満喫できる。また、和風モダンな造りの館内には、そば・うどんなどの定番メニューから季節感溢れる旬なメニューを取り揃えた食事処も常設。Wi-Fi完備で、1日中くつろげる空間となっている。

都心から車でわずか60分。温泉に浸かりながら、春は鳥のさえずり、夏は蝉しぐれ、秋は虫の合唱、冬は笹の葉擦れる音…四季や天候、時間によっても異なる趣を癒しの隠れ処『澄流』で堪能することができる。



露天風呂全景



岩手県遠野式バケツジンギスカン

FINE STEEL!

ボクらは
「自在に変化」
進化した鉄!

ボクらは「自在に変化」進化した鉄!

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。
ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの
特長

地震につよい 表面がきれい 環境にやさしい

屋根材・壁材には **ファインスチール**



全国ファインスチール流通協議会

<http://www.zenkoku-fs.com>

